

千葉県衛生研究所 情報

Health 21

この情報誌は、公衆衛生に関する身近な話題、情報をお知らせするものです。

——目次——

◎ 千葉県大規模多目的コホートの開始に向けての私どもの想い	技監 佐藤眞一	1
◎ 落花生とカビのお話し	細菌研究室 高橋治男	2
◎ ご存じですか？『おたっしや調査』	健康疫学研究室 遠藤幸男	3

千葉県大規模多目的コホートの開始に向けての私どもの想い

千葉県衛生研究所技監 佐藤眞一

県健康福祉部の各行政計画に挙げられている大規模コホート調査について、その開始に向けての協議を、がんセンター研究局、健康づくり支援課と進めてきました。現時点（平成 20 年 8 月）での私どもの考え方を示します。

目的は、①千葉県の地域特性を踏まえて、個人によって異なる体質、生活習慣に合ったオーダーメイド型の予防・医療を実現するためのデータ収集・分析、②特定健診・特定保健指導のデータ集積・分析体制の整備、がん登録の拡充と循環器疾患の疾病登録システムの創設により、県、市町村、地域の拠点医療機関等が、科学的・総合的な健康政策の推進、循環型医療システムの整備を図るための地域健康情報システムの構築、としました。

対象者は、当面、県内在住の 40～74 歳、男女。特定健診の対象者としてしました。将来的には、妊産婦・母子健診、献血の場等を通じ、若年者にも対象を拡大していく可能性も視野に入れています。募集は、特定健診の場（当面、集団方式の検診）で、保険者を通じて行い、インフォームドコンセントを得て参加してもらう計画です。ゲノムを含む血液検体の採取を行うことも考えています。基本情報として、特定健診データ、質問紙による生活習慣等調査に加えて、登録システムによる疾病発症情報、保健所と協

力して死亡小票情報、市町村と協力して異動情報を収集する計画です。市町村の協力の下、介護認定の情報を、保険者の協力の下、診療報酬、介護報酬の情報を提供していただき、それぞれの個人の情報をつなげて解析したいとも考えています。保存した血液検体からは、遺伝子多型といったゲノム情報や、環境・生活習慣を反映する血液化学検査情報を得、主としてコホート内症例対照研究の手法で解析したいと考えています。

調査結果は、県、市町村、保険者の行う保健医療福祉政策の立案、実施、評価に活用するのですが、常に県民の視点で活用することが重要と考えています。このため、研究倫理審査委員会は、県と利害関係のない有識者で構成する計画です。将来的には、コホートの運営そのものも参加している県民の代表者でできるような、県民の県民による県民のためのコホートにして行きたいと願っています。当然、個人情報管理は厳格、確実に行う必要があります。個人同定情報の管理は、県において研究とは独立したデータセンターで行い、研究では匿名化したデータセットを用いて解析を行う計画です。

コホート調査は参加する県民の皆さんはもちろん、多くの機関、施設の皆さんの多大な協力なくしては成り立ちません。医師会、保健所長会で協議してい

ただき実行可能性のより高い計画に練り上げるとともに、市町村、保険者との協議も進め、21年度からのモデル実施につなげたいと思っています。一緒に

千葉県民コホート調査を進めていただきたく、よろしくお願いいたします。

落花生とカビのお話し

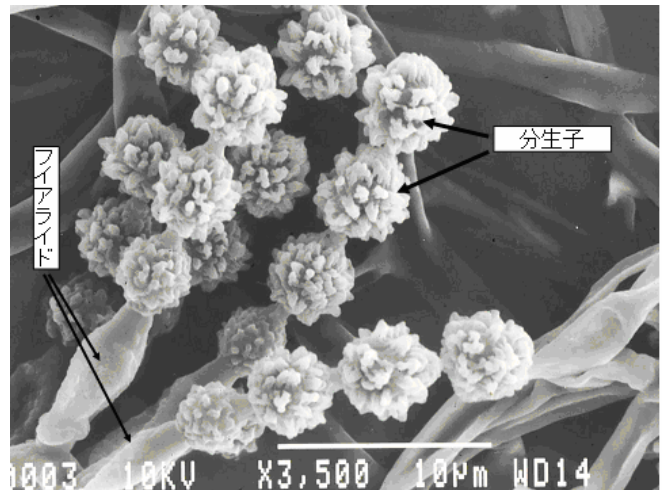
落花生は千葉県を代表する農産物で、実際、全国の生産高の75%近くを千葉県が生産しています。落花生は中国から渡来し、千葉県では幕末の頃から栽培されるようになったとされています。地中に実をつける落花生は柔らかな火山灰が深く堆積した千葉の土壌が栽培に適したうえ、自分の体内に空気中の窒素を利用できる菌（空中窒素固定菌）を保有していることから低肥料ですみ、八街などのような開墾地でも栽培できました。その後、県農林関係試験研究機関による品種改良もあり、千葉の落花生は世界一おいしいと言われるようになってきました。落花生はコレステロールを減らすオレイン酸やリノール酸に加え、老化防止など種々の効能があるとされるビタミンE、あるいは食物繊維など、多くの栄養成分に富んでいることから最近改めて栄養的価値が見直されています。

さて、近年は「食の安全」に大きな関心が寄せられ、落花生ではアフラトキシンによる汚染が問題にされることがあります。アフラトキシンはカビがつくる毒で、強い発がん性があることから注目されています。このカビは特に落花生などのナッツ類を好んで侵害し、アフラトキシンで汚染することがあります。世界的には、多くの先進国が規制値をもうけ、日本では10ppb（1kg中に0.01mgを含む濃度）、つまり、10ppb以上検出されると、その落花生は食品としては使用できないことになっています。

では、千葉県産の落花生は？と心配される方も多いかと思えます。衛生研究所では、落花生が千葉県を代表する農産物であることから、県内産落花生についてアフラトキシン検査と、このカビ毒をつくるカビの検査を、昭和48年から継続して行っています。これまでの検査結果では、アフラトキシンは検出されないことがほとんどで、また、検出されても基準値を大きく下回っています。しかも、アフラトキシンをつくるカビが検出されることも極めてまれ

です。もちろん、外国からの輸入品についても、入港時にアフラトキシンの検査が実施されていますので安全性が保証されています。

このアフラトキシンをつくるカビはコウジカビの仲間で、主に熱帯や亜熱帯に生息し、日本では主に鹿児島県から南方の地域に生息しています。コウジカビの仲間は、写真でお見せしています様に、身体である菌糸の先端（フィアライド）から球形の分身（分生子と呼ばれる）を数珠状に大量につくり、増殖します。



顕微鏡写真:コウジカビの仲間は、菌糸先端のフィアライドから分身である分生子を数珠状につくりだす。分生子は成熟すると分離し、風で他へ運ばれる。

しかしながら、このアフラトキシンをつくるカビの分布には新たな問題が出てきています。それは、現在進行している地球の温暖化現象で、南方に生息する生物がこれまで生息が知られていなかった北方地域でも次第に見かけられるようになってきました。アフラトキシンをつくるカビの分布もどの様に変化していくかを、これまで以上に注意をはらう必要があります。

これからも千葉県産の落花生の安全性を保証するには、今後の調査や検査がこれまでも増して重要になっています。（細菌研究室 高橋治男）

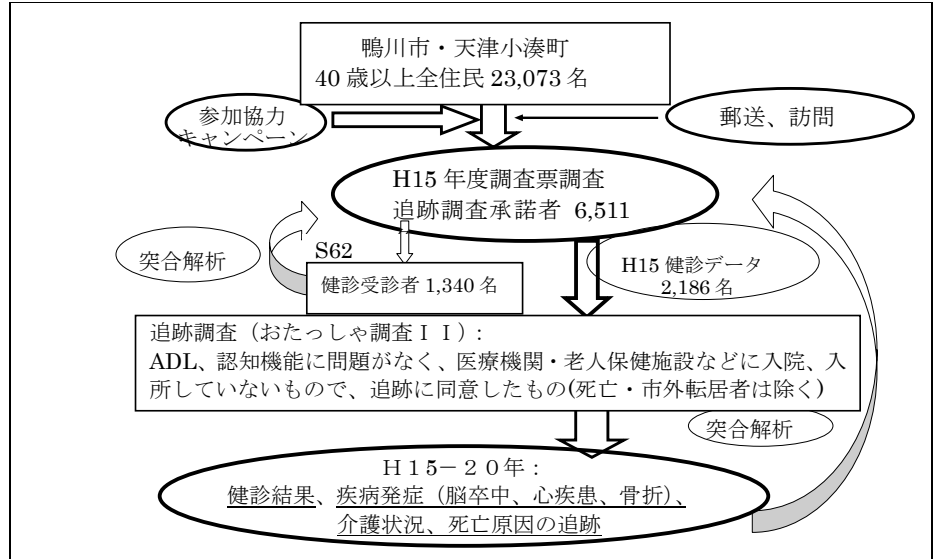
ご存じですか？ 『 おたっしや調査 』

『おたっしや調査』は生活習慣と疾病等の関連を明らかにし、健康寿命を延ばすための基礎資料とするため平成15年度にスタートした千葉県と鴨川市が共同でおこなっているコホート調査です。(コホート調査とは調査対象集団を一定期間追跡し、追跡開始時の健康状態や生活習慣と追跡期間中に発症した疾病等との関連を調べるものです。)

平成16年1月に鴨川市と天津小湊町(現鴨川市)に在住の40歳以上の人(23,073名)についてベースライン調査のアンケートを行い、10,739名から回答を得ました。(回収率46.5%)

このうち、6,511名から5年間の追跡調査の同意を得られました。転居や死亡で追跡できなくなった人を除くと現在も約6,000名がこの調査に協力をしています。毎年追跡調査の内容は、市の健康診査データ、介護認定状況および死亡・死因・転居です。この他、昭和62年度と平成15年度の健康診断データの比較調査、疾病情報確認調査、中間アンケート調査を行っています。平成20年度には5年前の生活習慣と比較するための最終アンケート調査を行いますが、いくつかの調査についてはデータ収集を継続する予定です。

<<図1 おたっしや調査のイメージ図>>



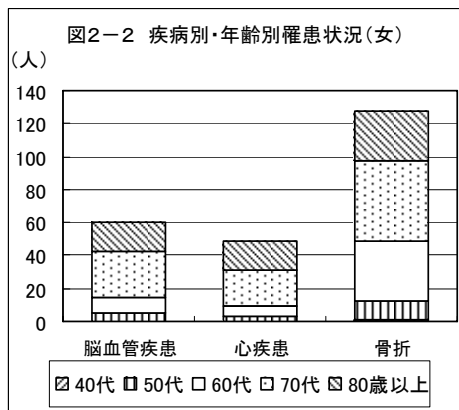
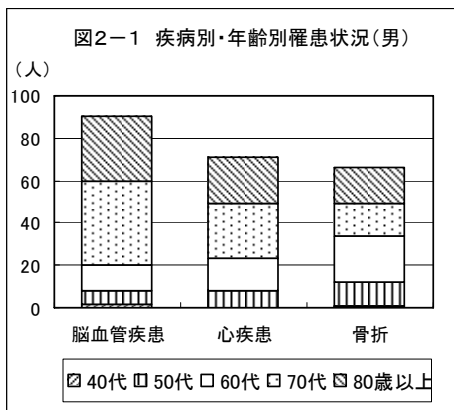
調査の概要は衛生研究所ホームページ健康疫学研究室のページに掲載されていますのでご覧ください。
(http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c_eiken/index.html)

いままで行った調査の結果の一部を紹介します。
昭和62年度と平成15年度の健康診断結果比較

男性の50歳代、60歳代の肥満者の割合は、昭和62年度に比べ平成15年度で増加する傾向が見られました。また、血圧判定では、男女ともに正常高値の人の割合が平成15年度で増加していました。

脳血管疾患・心疾患・骨折の発症状況

平成18年2月に、脳血管疾患・心疾患・骨折の発症についてアンケート調査を行いました。回答者(4,584名)のうちこれらの疾病を発症していたのは428名(9.3%)で、男性は脳血管疾患が多く、女性では骨折が多い回答を得ました(図2-1、図2-2)。また、脳血管疾患・心疾患・骨折の発症経験者のほとんどを男性・女性と



もに60歳以上が占めていました。5年間の総合データ解析は平成20年度調査終了後となります。疾病の発症や健康状態の悪化に関する要因を総合的に解析していくことにより得られた結果を、疾病予防や健康施策に活かしていきたいと思ひます。

平成20年度からは、がんセンター研究局と共同で『健康県ちば宣言プロジェクト』の一環として大

規模なコホート調査を計画・実行していきまひす。おたっしや調査で得られた経験・結果を活かし、より良い調査にしていく所存です。調査は、協力者が多いほどより精度の高いものとなります。健康の保持増進、また、次世代への健康情報伝達のために多くの県民の皆さまの調査への御協力をお願いしまひす。

(健康疫学研究室 遠藤幸男)

千葉県衛生研究所公開講座:第4回(7月26日)を開催しました!

県民の皆様が健康で安全な生活を送るための知識の啓発・普及を目的とした公開講座を開催しています。今回は、食の安全・安心のための最新情報として「食品中の残留農薬」と「食物アレルギーと食品の表示」、また、「結核!身近な感染症」についてお話ししました。

講師は、食品化学研究室と細菌研究室の研究員が担当しました。

次回は、年度内に第5回目の開催を予定し、県民だより等で広報しますので是非ご参加ください。

千葉県衛生研究所公開講座のページ

http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c_eiken/risousu/study/koukai/summary.html

千葉県感染症情報センター <http://www.phlchiba-ekigaku.org>

感染症法に基づいて医療機関から保健所を通して県に報告される千葉県の感染症発生情報を取りまとめ、毎週HP上で更新しています。ここ数年10-20代の流行が社会問題となっている「麻疹」に関しては毎週の発生状況、年齢別・予防接種歴の有無別等の詳細情報を掲載しております。また、インフルエンザの流行時期には「インフルエンザ情報」として患者報告数、集団発生状況、ウイルス分離・型別等に関する情報を掲載しております。

千葉県の感染症発生 of 最新情報の把握にご活用ください。

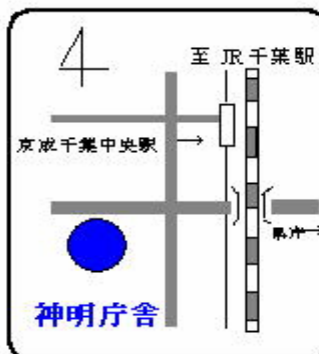
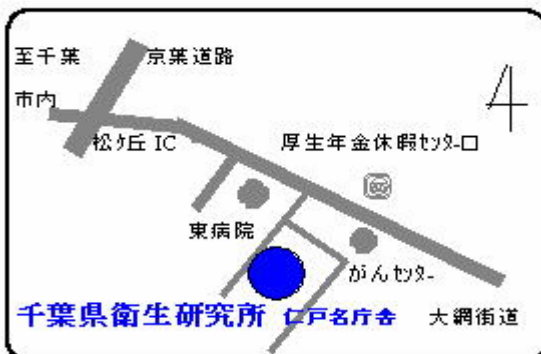
健康福祉リソースセンター

http://www.pref.chiba.lg.jp/syozoku/c_eiken/risousu/index.html

県民の皆様等に対して情報提供等の拡充・強化を図るため、公衆衛生に関する情報の収集・解析・情報提供を行う「健康福祉リソースセンター事業」に取り組んでいます。

情報提供の一例として、近隣の都道府県で開催される講演会等情報を毎月更新し掲載しています。また、海外の健康情報として米国国立衛生研究所の情報紙「News In Health」の日本語版を、許可を得て掲載しています。

健康づくりや最新情報・知識の習得にご活用ください。



Health 21 No.19
 千葉県衛生研究所情報 2008 .9.15
 編集・発行：千葉県衛生研究所情報誌
 編集委員会
 事務局：感染症学研究室
 260-8715 千葉市中央区仁戸名町 666-2
 Tel:043-266-6723 Fax:043-265-5544